

## エ 「はさまれ」の事例

### トラックの誘導中に電信柱とトラックの間にはさまれそうになった

#### ▶ 状況

十字路での道路工事で、トラックの交通誘導に従事していた警備員が、後進してきたトラックと電信柱にはさまれそうになった。

#### ▶ 主な原因

- ✓ 電信柱とトラックの間に立って誘導を行っていた。

#### ▶ 主な対策

- ✓ 交通の流れだけに気を取られず、足元や後方の障害物を見落とさないよう周囲の状況を把握する。
- ✓ 車両は思いがけない動きや操作ミスが生じるおそれがあるため、安全な場所を確保してから誘導する。
- ✓ 狭い道路などでは運転手から警備員が見えづらいため、安全な位置を選定すると同時に必要に応じて警笛を吹鳴する。



### 風が強い日に、鉄扉にはさまれそうになった

#### ▶ 状況

工場敷地内を巡回中の施設警備員のAさんは、数分の巡回後すぐに工場を出ることを考え、鉄扉を開放したまま工場内を巡回していた。巡回後工場から出ようとしたところ、強風によって急に鉄扉が閉まり、手をはさみそうになった。

#### ▶ 主な原因

- ✓ 外の環境（強風）を考慮せずに、扉を開放したままにしてしまった。

#### ▶ 主な対策

- ✓ 扉を開放する際は、周囲の環境、状況を十分考慮する。
- ✓ 鉄扉などの重量物があるなど、巡回経路の危険な箇所については、警備開始前に情報共有しておく。